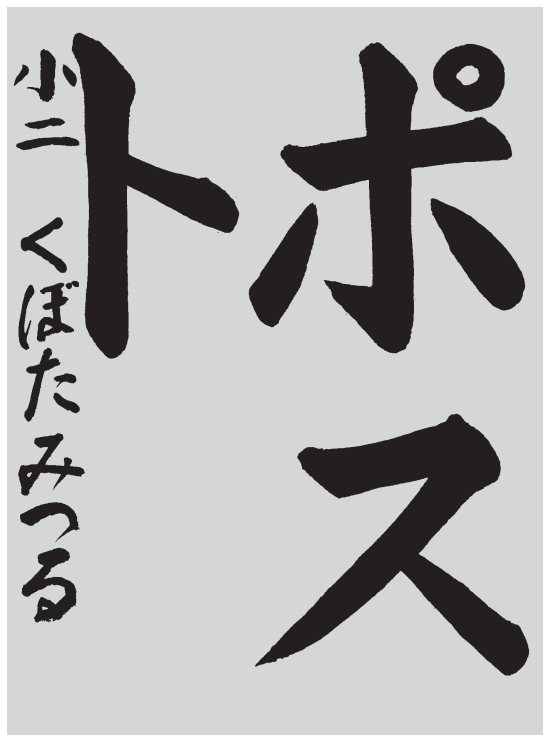


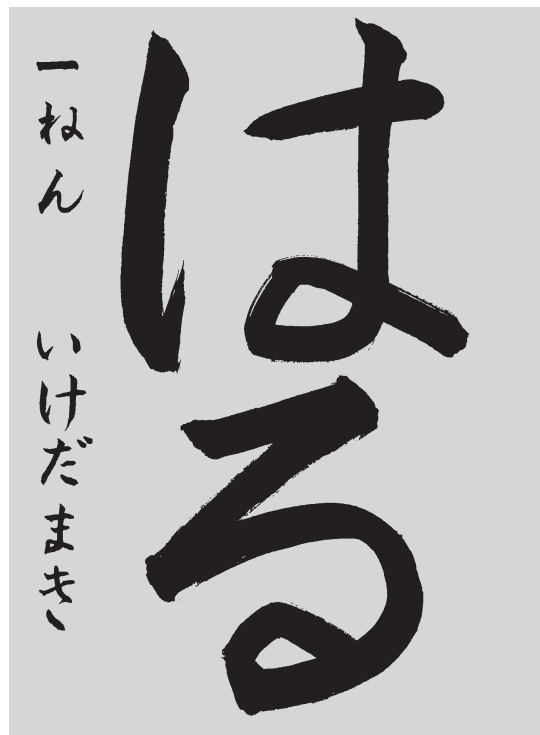
〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

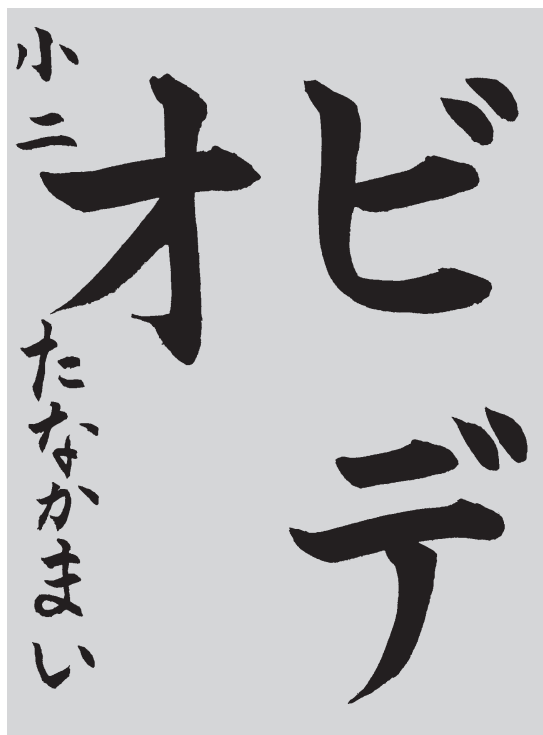


柳橋香仙先生

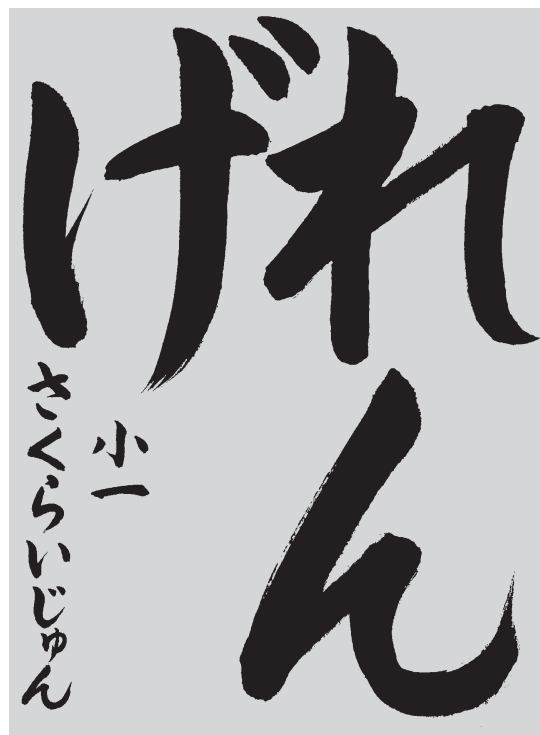
幼・小学1年参考手本



白石和楓先生



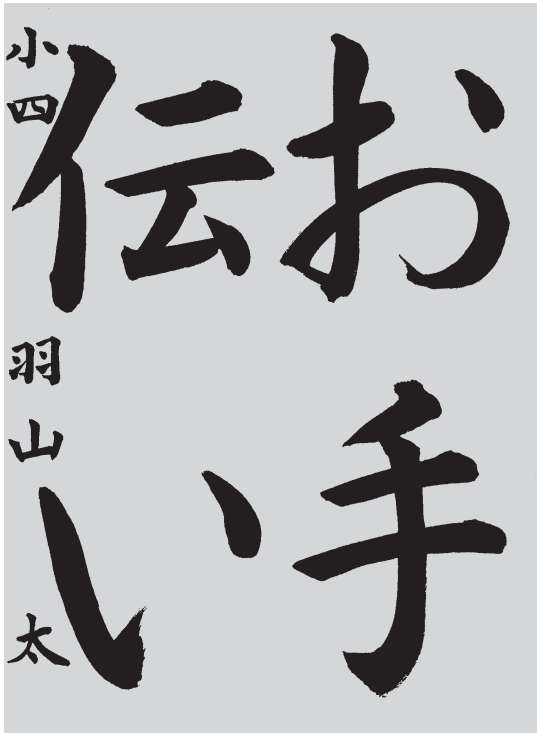
後藤大峰先生



一谷春窓先生

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学4年参考手本

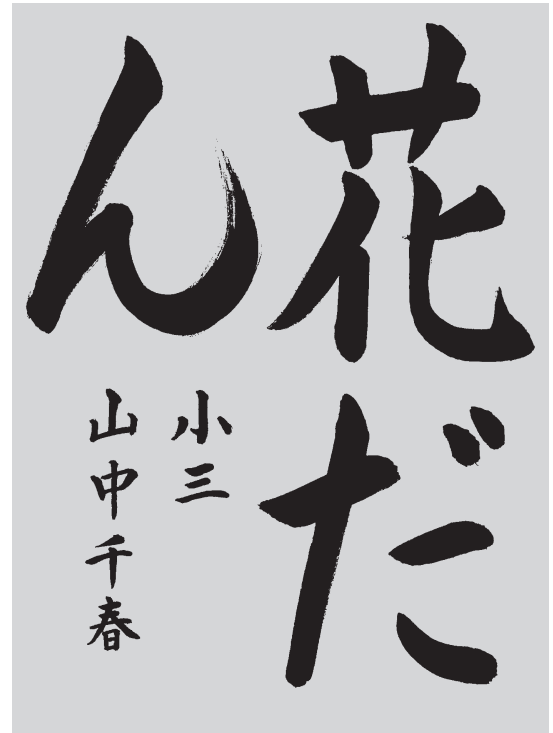


辻元大雲先生



稲垣小燕先生

小学3年参考手本



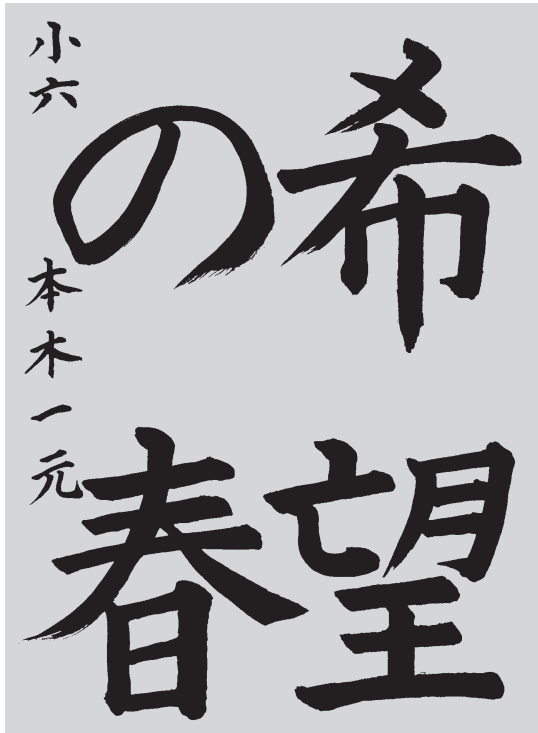
島田白露先生



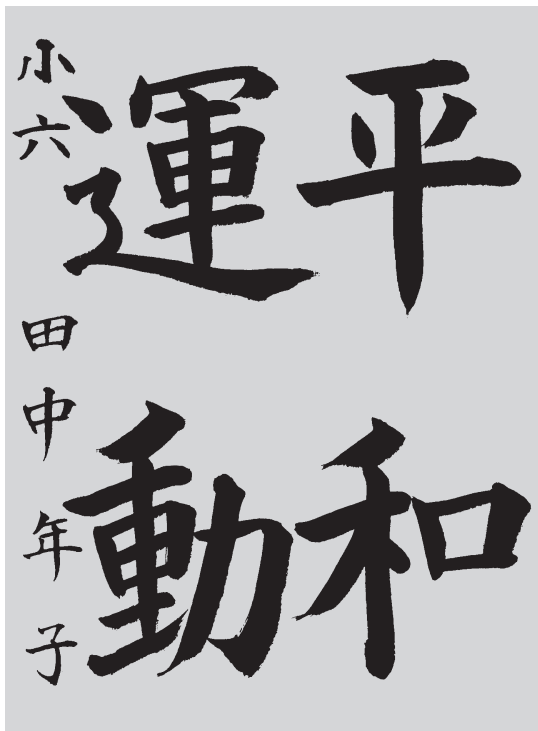
三浦鄭街先生

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学6年参考手本



佐藤無極先生



牧泰濤先生

小学5年参考手本



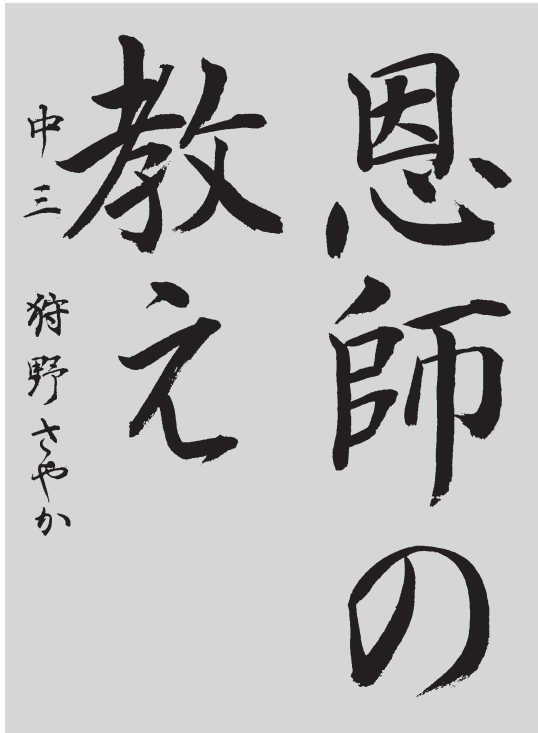
石田春窓先生



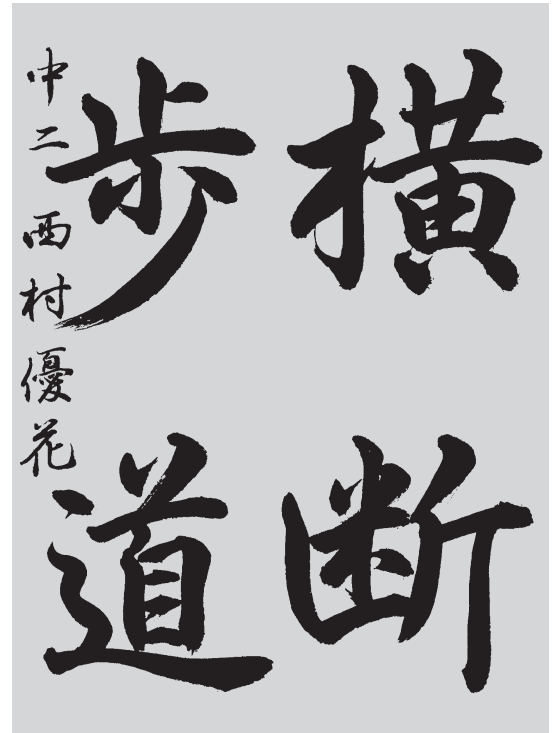
下谷洋子先生

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

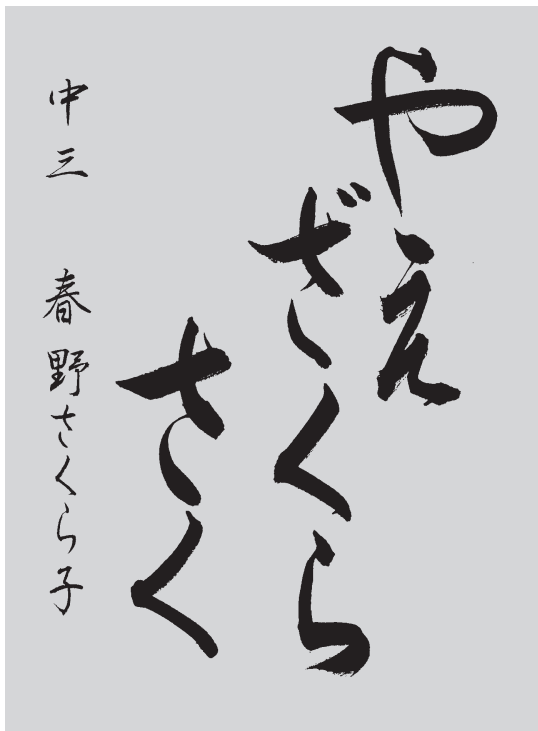
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



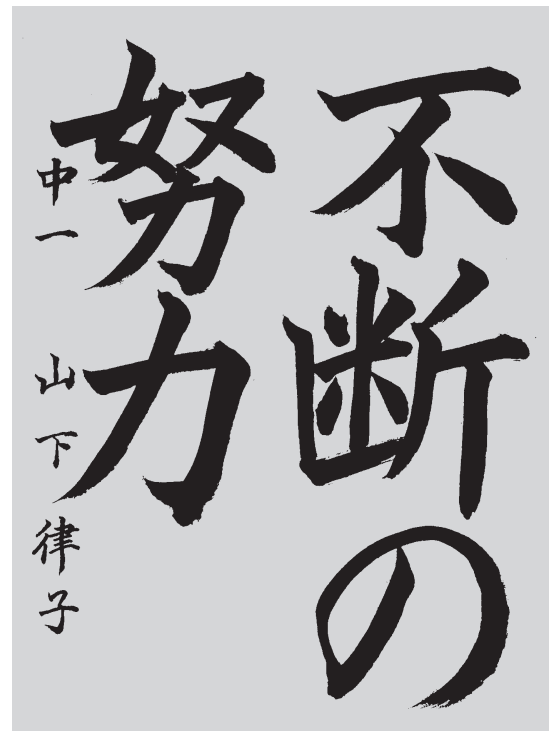
恩 地 春 洋 先 生



恒 次 鶴 城 先 生



飯 高 和 子 先 生



小 林 琴 水 先 生

〔3月10日締切課題〕

幼・小 学 1 年

硬筆参考手本

解説 辻元大雲先生

〔3月10日締切課題〕 用紙は本連盟指定のものか、もしくは指定の用紙をコピーして使用してください。
※3月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、4月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（毛筆も同じ）

◎各学年に「学習のめあて」をつけました。

「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。

◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用して下さい。

◎学年は漢数字(一、二、三……)、級は算用数字(10、9、8……)、段は漢数字(一、二、三、四)と記入。

◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。

◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。

◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよい。

◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の貼り間違いにご注意ください。

支 部 名			
	ふ	り	竹
だん・きゅう	ま	した。	やぶ
がくねん	一		に
な ま え	えちごじゅん		雨
			が

雨 はね

「てん」のほうこうを
ただしくかきましょう。

1 2 3 や とめ

竹 はね

「とめ」は「はね」をただしくかきましょう。

『竹やぶ』

「とめ」「はね」をただしくかきましょう。

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小 学 3 年

小 学 2 年

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
三									
名 前									
中村剛輔									

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
二									
名 前									
菅原朋哉									

「習」の組み立てに気をつけて書きましょう。

【学習】 「がくしゅう」

たてと横の分間を整えて
へひつじゅん

門 門 門 門 間

なが
長く

ちゅうしん
中心

羽 白

文字の組み立て

だい
小

しょう
大



声

はうこうと長さにちゅうい

へひつじゅん

一十士 吉 吉 吉 声



歌

「はらい」のほうこうにちゅうい

へひつじゅん

一 可 可 可 哥 哥 歌



草

ちゅうしん 中 心

はいるほうこう

なが 長く

『歌声』 うたごえ

ひつじゅんにちゅういして、正しく書きま

しょう。 ただ か

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小 学 5 年

小 学 4 年

支 部 名			
	が	事	
	演	堂	今
段・級	説	で	日
	を	、	の
学 年	し	文	午
	ま	部	後
名 前	し	科	、
	た	学	国
	。	大	会
		臣	議

支 部 名			
	書	も	「
	か	と	伝
段・級	れ	づ	記
	た	い	、
学 年	も	て	、
	の		物
名 前	で		語
	す		風
	。		に
			に

演

〈筆順〉
シハ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ

中心
臣

一 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ
方向に注意
下に出る

議

戈（ほこづくり）の形と
画の長短に注意

『演説』
画数の多い字形を整えて書きましょう。

風

そる
「とめ」「はね」「はらい」に注意

中心
実

八画目の起筆は六画目から書く

記

言（ごんべん）の形に
気をつけて書きましょう

『伝記』
漢字の字形を見て、正しく整えて書きましょう。

〔3月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中 学 生

小 学 6 年

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中三
名 前	柴田 友子

今日は、いよいよ卒業式だ。

三年前の入学式の日は、校庭の桜

が満開で、きれいだった。

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	六
名 前	倉田 和寿

大切な心の財産として

受けつがれていきます。

古典芸能は、人々の

卒業式 校庭

最終画は、はらいを止める

3・4画つづけて4画省略

7画止めて次へつづける

10画はらいを止める

3・4画 つづけて書く

5・6画 「はらい」を「止める」

12・13画左右の「はらい」を「てん」に

〈簡単な行書〉

中心
三年前の入学式

『卒業式』
行がゆがまないように、整えて書きましょう。

財

起筆の位置に注意

能

方向
匕 (許容字体)

典

たて、横の分間に注意
それぞれの位置と方向
〈筆順〉
冂 曲 曲 曲 典

『古典芸能』
文字の外形を見て、形を整えましょう。

3 年	花	カ はな	一	サ	サ	𠂔	𠂔	𠂔	花
4 年	伝	デン つた・わる つた・える つた・う	イ	仁	伝	伝			
	美	ビ うつく・しい	ソ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	美
5 年	基	キ もと もとい	一	𠂔	𠂔	𠂔	其	基	
	準	ジュン	シ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	準
	周	シュウ まわ・り	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	周		
6 年	希	キ	ノ	𠂔	𠂔	𠂔	希	希	
	望	ボウ モウ のぞ・む	𠂔	亡	𠂔	𠂔	望	望	
	運	ウン はこ・ぶ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	軍	運	運
中学	断	ダン た・つ ことわ・る	𠂔	𠂔	𠂔	断	断	断	
	恩	オン	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	恩		
	師	シ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	師	師	

行書を学ぼう

(175)

(中学生の課題より、辻元大雲先生書)

努

努

歩

歩

横

横

力

力

道

道

断

断

行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

ひらがなの字源

(175)

書写教育
全国大学書写書道教育学会編より転載

く	さ	ら	く	ざ	え	や	
久 久 く	左 もく せ さ	良 ひ ら ら	久 久 く	左 もく せ さ	衣 え え え	也 や や や	源字 字形

※源字については、異字体から変遷したもの。*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

漢字に親しもう

(24)

三月号六年生の毛筆課題「平和運動」の「運」という字にスポットを当てて「軍」という漢字を家族でおぼえよう。

軍

めぐる

のかぞく

軍運揮輝

【軍】

一十車→軍

軍隊の車が何かをとりかこむように円陣をつくること。円をえがいて陣どった集団。→軍隊。めぐる。

【運】

軍十人→運

ぐるぐると、まるくまわること。→めぐる。

【揮】

才十軍→揮

まるく円をえがいて、ぐるぐると手をまわすこと。→ふるう。

【輝】

光十軍→輝

光の中心を、まるくとりまいた光のこと。→かがやき。

軍

音グン 訓——
① 軍隊。② た

手・将軍
たかい。いくさ。▼軍備・軍

運

音ウン 訓はこぶ
① はこぶ。②

めぐる。③まわりあわせ。
▼運命・運転・運動・幸運

揮

音キ 訓——
① ふるう。②

さしずする。③とびちる。
▼指揮・発揮

輝

音キ 訓かがやく
① かがやく。

▼光輝

編集余録

○第35回書き初め誌上展の成績を発表しました。大賞・準大賞の作品は写真版にて紹介しました。どの作品も日頃の練習の成果が十分に発揮された見事な作品です。入賞者の皆さんおめでとうございます。『継続は力なり』という言葉がありますが皆さんの日頃の努力に心から敬意を表します。出品点数は2年連続で増加しました。指導に当たられた先生方に感謝申し上げます。

○35年間続いた歴史ある書き初め誌上展ですが新年度から大幅に形が変わります。毎年、夏に行われた全国学生展が来年2月開催の書道芸術院展と併催になり、しかも書き初め誌上展は学生展に組み込まれます。学生展は半紙の部と半切1/2の部の二本立てになり両方に出品出来ることになりました。作品の締め切りは11月1日(木)です。会期は平成25年2月16日から21日まで、会場は新しくなった上野の東京都美術館です。奮って出品くださるようお願いいたします。

○世の中の流れが速くなっているように感じますが、ゆったりとした心で毎日を過ごしたいものです。「のろのろ」では決して無いのです。「ゆったりした心」が今は特に大切に思われます。

(鄭街)